

交通のご案内

国立大学法人 東北大学
産学連携先端材料研究開発センター
Material Solutions Center



東北大学片平キャンパス

〈徒歩〉

JR仙台駅西口より約 20 分

〈バス〉

仙台駅西口バスプール 11 番乗り場

- 仙台市営バス 701 系統『霊屋橋経由八木山動物公園駅』に乗車
- 仙台市営バス 704 系統『霊屋橋経由八木山動物公園駅経由緑ヶ丘三丁目』に乗車
- 仙台市営バス 706 系統『霊屋橋経由八木山動物公園駅経由八木山南・西高校入口』に乗車

仙台駅西口バスプール 12 番乗り場

- 宮城交通バス 14 系統『八木山動物公園駅経由山田自由ヶ丘／南ニュータウン』に乗車
- 宮城交通バス 28 系統『八木山動物公園駅経由長町駅／市立病院』に乗車
- 宮城交通バス 29 系統『松が丘経由長町駅』に乗車

下車停留所『青葉通一番町』または『東北大正門前』

〈地下鉄〉

地下鉄南北線をご利用の場合

- 『五橋駅』下車 北2 出入口より徒歩約 10 分

地下鉄東西線をご利用の場合

- 『青葉通一番町駅』下車 南1 出入口より徒歩約 10 分

〈タクシー〉

『東北大学片平キャンパス北門』と指示
JR仙台駅西口タクシープールより約 10 分



Social Infrastructure



Electronics



Energy



国立大学法人 東北大学
産学連携先端材料研究開発センター
Material Solutions Center

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
Tel: 022-217-3826
E-mail: masc-jimu@grp.tohoku.ac.jp
URL: <http://www.masc.tohoku.ac.jp/>



2025.5



国立大学法人 東北大学
産学連携先端材料研究開発センター
Material Solutions Center

センター長ご挨拶

未来の社会を支える 新しい材料・デバイスを

センター長 福山 博之



東北大学産学連携先端材料研究開発センターは、東北大学と産業界が連携して、これからの社会を支える新しい材料を研究開発し、社会実装することを目指して、経済産業省の施設整備費補助金を活用し金属材料研究所、多元物質科学研究所、流体科学研究所、及び本部事務機構の連携により2014年1月に発足いたしました。

その後、2018年度より電気通信研究所が運営に参画し、研究開発の対象が材料とその応用デバイスまで拡張され、片平地区の産学共創拠点として今日に至っております。

東北大学は、物質材料研究において世界トップクラスの実績と伝統を誇り、特に片平キャンパスには、材料系、デバイス系の優れた研究機関が集積しております。この力を結集して、産業界からの様々な要求に応え、共に問題解決に取り組むセンターという意味で、英語名を Material Solutions Center(MaSC) といたしました。

当センターは、研究スペースと共用設備の使用料で経費をまかなう独立採算で運営され、安全衛生とセキュリティも安定に維持されております。

当センターの研究領域は、(1) 社会基盤材料 (2) エレクトロニクス材料 (3) エネルギー材料の3つの分野からなり、個々の研究課題は、公募の後、企画および運営委員会での審議を経て決定されます。

当センターは設立後11年が経過し、産学連携活動の両輪として継続的に運用して参りました技術交流会「リアル・エクスチェンジ」と「アソシエイト・メンバーシップ制度」から、多くの産学連携研究が生まれております。一方、技術交流会を契機に本学の複数の研究者を中心とする3つの研究拠点が立ち上がり、それぞれの拠点研究者と企業との間で、オーダーメイドな連携が活発になされるようになってまいりました。加えて2022年に新たに始めた「リアルツアー in 東北大学」というオープン・イノベーション模索の試みからも幅広い研究分野での産学共創が生まれています。

今年度は、これまでの11年間に培われた新たな産学共創の模索～支援活動のノウハウを活かし、エネルギーと食糧の安全保障に資する材料 / デバイス / システム分野においてGXバリューチェーンの構築を目指して学内外での広範な連携活動を推進して参りますので、これまで同様にご支援、ご協力を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

産学連携で切り開こう 未来の先端材料

—東北から世界へ発信—

本センターは、経済産業省の施設整備費補助金を活用し、東北大学を代表する金属材料研究所、流体科学研究所、多元物質科学研究所、および大学本部が連携整備し、その後、電気通信研究所が加わった産学官の連携拠点です。

これらの附置研究所が世界的な強みを有する革新的な材料プロセス技術である金属ナノ制御技術、超ハイブリッド材料技術、次世代デバイス作製技術などの技術基盤を基に、ナノからマクロまでのマルチスケールで、

社会基盤分野

(ライフサイエンス用材料、航空宇宙用材料、自動車用材料など)

エレクトロニクス分野

(パワーデバイス材料、電子デバイス材料など)

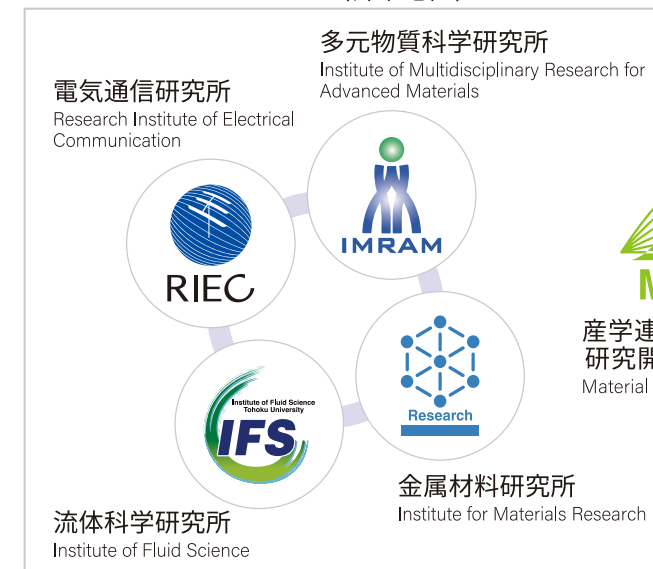
エネルギー分野

(太陽電池関連材料、水素貯蔵材料、蓄電池材料など)

において、先進的な新機能材料開発を産学官による研究開発体制で推し進めてゆく役割を担っています。

本センターが、東北地域の震災復興に資する研究開発拠点到ってゆくとともに、ここで生まれた新しい技術・事業の芽が、我が国の材料分野における産業集積と雇用の創出、ひいては、我が国の材料分野の国際競争力の強化にも繋がってゆくものと確信しています。

東北大学 附置研究所 (片平地区)



産業界



センター長：福山博之

副センター長：吉田栄吉 西山信行 石本淳 佐藤茂雄 岡本聡



センターの特徴

本センターは、本学研究成果の事業化を促進するために「Under One Roof」のもと、産学が同居連携して未来に向けた新材料の研究開発を遂行するラボ機能を有しています。

センターの1階から5階までに配置された研究室と実験室に様々な産学連携プロジェクトが入居し、「社会基盤分野」、「エレクトロニクス分野」および「エネルギー分野」において新しい機能を有する材料の開発を行っています。1階には材料の研究開発に不可欠な汎用性の高い共用分析装置群を設置しており、新材料の精密な微細構造解析や組成分析がすぐに行える体制を整えています。本センターでは、各階に設けられたラウンジと2つの会議室、開放的な中庭等、産学交流を促すオープン・スペースも充実しており、これらのスペースや共用分析機器、無線LANを利用できるアソシエイト・メンバーシップ制度の運用も平成29年10月よりスタートいたしました。また、本学の優れた材料シーズと産業界の様々なニーズのマッチングを促進するための技術交流会「リアル・エクスチェンジ」を定期的に開催し、毎回活発でユニークな討議がなされています。

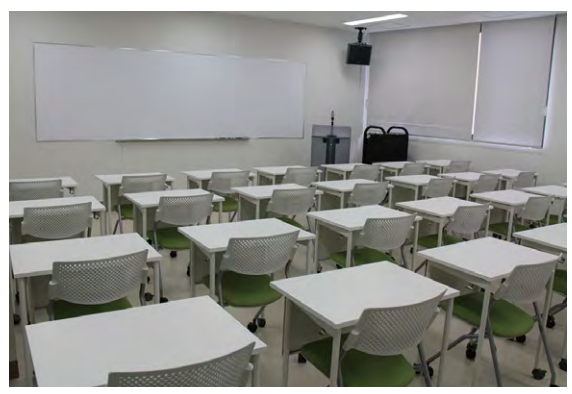
産学連携先端材料研究開発センターフロア図



施設

A

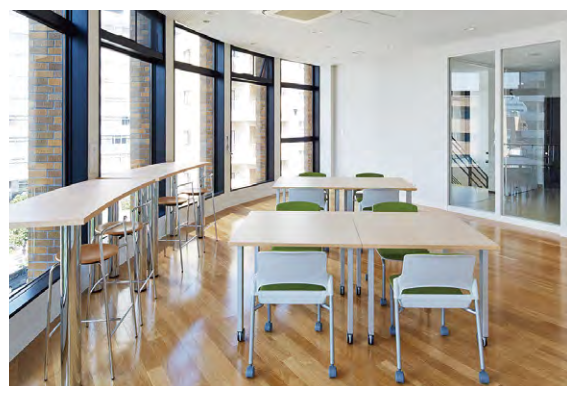
会議室



1階と5階に会議室を設置。電子情報ボード、プロジェクター、音響設備を完備し、センター入居者、およびアソシエイトメンバーは無料で利用できます。収容人員は、最大30名です。

B

ラウンジ



1階ラウンジには、プロジェクターと大型スクリーンがありプレゼン等が可能です。2～5階ラウンジは、机とカウンターがありミーティングや談話に利用できます。また3階ラウンジにはロッカーを配備しています。

C

中庭

オープンカフェ風デッキの中央には、東北帝国大学第5代総長井上仁吉先生の御退官記念樹のしだれ桜があります。

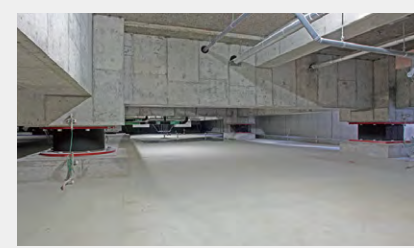
D

支援室

センターの利用を円滑に進めるため、職員が1階支援室に常駐し利用者の対応をしています。

免震装置について

センター棟は、積層ゴムやダンパー等の免震装置を使って建てられた免震建物となっています。免震装置を設置している場所を「免震層」と呼んでいます。地震時には建物ではなくこの部分で地震の激しい揺れが直接建物に伝わるのを防ぐようになっています。





材料や機能デバイスの研究開発に有用な「構造解析システム」「物性解析システム」「組成分析システム」「微細加工システム」等の分析設備を1階の共用機器室に集中的に整備し、入居プロジェクトや片平地区の研究者が身近に使用できる環境を整えています。各装置とも様々なオプション機能を具備しており、他では困難な材料の解析・評価も可能になっています。

E

構造解析システム(ナノ構造等) 電界放出型走査電子顕微鏡システム(FE-SEM+CP)

日本電子(株)製 JSM-7800F



電界放出型の走査電子顕微鏡と試料作製に有用なクロスセクションポリッシャです。オプションにエネルギー分散型X線分析装置(EDS)、結晶方位解析装置(EPDM)を備えており、トランスファーベッセルも用意しています。

①クロスセクションポリッシャ 日本電子(株)製 IB-09020CP

F

組成分析システム 電界放出型電子プローブマイクロアナライザ(FE-EPMA)

日本電子(株)製 JXA-8530F



電界放出型の電子プローブマイクロアナライザで、波長分散型X線分光器(WDS)で取得したデータから元素濃度や化学組成をマッピングするソフトウェアを装備しています。更に本学寺内教授らが開発した軟X線分光器(SXES)を備えており、Liなどの軽元素の解析も可能です。

①軟X線分光器 日本電子(株)製 SS-94000SXES

G

微細加工システム FIB/SEMデュアルビームシステム(FIB/SEM)

FEI(株)製 Helios NanoLab™600i



集束Gaイオンビームにより試料をナノスケールで精密に加工する装置で、加工時の熱影響を低減するためのクライオシステムを備えています。更に加工時に取得した1枚ずつの連続した2Dデータを3D化するソフトウェアも備えています。

H

物性解析システム 顕微可視赤外分光システム(FLIM)

(株)東京インストルメンツ製 NX-FLIM-T03



蛍光寿命マッピングにより化合物半導体の組成・欠陥・量子井戸・不純物・結晶性等の評価を行う装置です。試料を冷却しながらの測定も可能です。

I

組成分析システム 多機能走査型X線光電子分光分析装置(XPS)

アルバック・ファイ(株)製 PHI5000VersaProbeII



試料最表面の化学結合状態を調べるための多機能走査型X線光電子分光分析装置です。任意の50か所までの測定位置に対して連続自動測定ができます。トランスファーベッセルを用意しています。

①アルバック・ファイ(株)製トランスファーベッセル

J

構造解析システム(結晶等) X線結晶構造解析システム(多目的XRD・単結晶XRD)



全自動水平型多目的X線回折装置 (株)リガク製 Smart Lab 3G
薄膜試料、粉末試料の定性分析・構造評価ができる全自動水平型多目的X線回折装置です。オプションに高速でかつ高角度分解能の検出器(D/teX Ultra250)を装えており、気密試料ホルダーも用意しています。

微小結晶構造解析装置 (株)リガク製 VariMax DW with IP
金属、酸化物、タンパク質結晶などの構造解析を行う微小結晶構造解析装置です。検出部には高分解能で大面積のイメージングプレートを装備し、オプションに試料を-180℃まで冷却して解析ができる低温装置を備えています。



Project

プロジェクトのご紹介

SO 社会基盤分野 **EL** エレクトロニクス分野
EN エネルギー分野

半導体ナノファブ리케이션に関する研究

EL

本研究では、Beyond 2nm半導体集積回路の性能向上に資する、原子レベルでの統合的な、ファブ리케이션技術の検討を行います。半導体材料に関しては、シリコンとゲルマニウムの酸化初期過程や原子層堆積技術の検討を進め、最適な原料と成長プロセスの探索を行います。更に原子層成長技術を高度化し、絶縁膜と金属の理想的な界面を追求致します。本学に基本的な知的財産やノウハウを蓄積し事業化を進めます。

プロジェクトリーダー 遠藤 和彦

流体科学研究所
グリーンナノテクノロジー研究分野
教授



次世代シンチレータ結晶の量産技術開発

EN

本プロジェクトでは、次世代の医療機器や環境測定に用いる新規シンチレータ結晶の材料探求・量産技術開発及びそのデバイス化に関する開発を行っています。我々が開発したマイクロ引き下げ法による高速材料探求技術とCz法およびブリッジマン法・OCCC法による量産化技術を融合させることにより、新規高性能シンチレータの速やかな社会実装を目指します。

プロジェクトリーダー 吉川 彰

金属材料研究所
教授



超臨界ナノ材料技術開発

SO **EL** **EN**

超臨界ナノ材料技術を様々な産業分野に応用展開するため、大学の超臨界実験設備を活用し、基礎・探索から実用化に至る各ステージの研究・部材開発を、民間企業との連携のもと実施します。企業との共同研究を強力に推し進めるとともに、本技術に基づく大型プロジェクトも推進していきます。

プロジェクトリーダー 阿尻 雅文

材料科学高等研究所
WPI-AIMR
ソフトマテリアルグループ
教授



機能性混相流体・材料の創製と計測・シミュレーション評価

SO **EN**

オイルやシリコンゴム等の分散媒中に磁場に反応する強磁性体微粒子を分散した機能性混相流体・材料を創製します。さらに、その磁場に対する機能的特性に関して流動と変形及び粒子間相互作用を同時に扱う連成解析による数値シミュレーションと実計測との融合評価により、機能性の明確化とその性能向上を目指します。

プロジェクトリーダー 石本 淳

流体科学研究所
教授
統合流動科学国際研究教育センター
副センター長
MaSC 副センター長



トライボロジー融合研究拠点プロジェクト

SO **EN**

トライボロジー技術は、省エネルギーや安心・安全な社会を支える基盤です。東北大学には、材料、機械、計測、シミュレーションが協働する世界に先行する独自の低摩擦研究が展開しています。この基盤を生かし、産官学で連携してイノベーションを生み出す地域振興に貢献します。さらに、機器の共用のためのオープンラボラトリーを運営しています。

プロジェクトリーダー 栗原 和枝

未来科学技術共同研究センター
教授



アンモニア燃焼ハイブリッド航空推進システムの検討

SO **EN**

本プロジェクトでは、広島大学、三菱重工航空エンジン株式会社との共同研究で、アンモニアハイブリッド航空機の概念検討、アンモニアハイブリッド推進システムの研究開発、航空用アンモニア燃焼器の基礎研究の3つの課題に取り組み、カーボンフリーなアンモニア燃焼を推進システムに応用した航空機の概念検討を行います。

プロジェクトリーダー 大林 茂

流体科学研究所
リサーチプロフェッサー



セイコーエプソン×東北大学 サスティナブル材料共創研究所

SO

持続可能な社会の実現に向けたサーキュラーエコノミーシステムの構築のためには、「脱炭素」、「資源循環」が重要な取り組みになります。本共創研究所では、東北大学の強みである複合材料研究や放射光解析技術とエプソンが保有するドライファイバーテクノロジーを融合させたサスティナブル材料の先端基礎研究により、「脱炭素」、「資源循環」の社会実装を加速してまいります。

プロジェクトリーダー 岡部 朋永

工学研究科 航空宇宙工学専攻
材料・構造スマートシステム学分野
教授
グリーンクロステック研究センター
センター長



機能性先端材料の技術開発と社会実装

EL **EN**

エレクトロニクス、エネルギーなどの分野における様々な企業と誠実な連携を推進し、機能性の各種材料やそれらの製造や加工などに関する研究開発を行うことで、様々な成果の情報通信、医療など幅広い分野での実用化や社会還元を目指しています。とくに、材料の表面、界面の制御により、高機能なデバイスに応用する技術の開発と人材育成を進めてまいります。

プロジェクトリーダー 戸津 健太郎

マイクロシステム融合研究開発センター
教授
(副:鈴木茂 名誉教授)



マルチマテリアルによるアディティブ・マニュファクチャリング技術開発

SO

「次世代機体構造用CFRPハイブリッド技術の研究開発」を行うべく、熱硬化性樹脂・熱可塑性樹脂によるマルチマテリアル実現のための要素課題として、(1)製造条件と装置の開発、(2)接着・接合技術の開発、(3)多目的最適設計・トポロジカルデザイン・生体模倣デザイン、(4)損傷・破壊・環境劣化対策、(5)意匠自在性の担保、を掲げ、早期の実用化を目指し開発を行います。

プロジェクトリーダー

岡部 朋永

工学研究科 航空宇宙工学専攻
材料・構造スマートシステム学分野
流体科学研究所
マルチフィジックスデザイン研究分野
教授
グリーンクロステック研究センター センター長



バイオマスを基にした物質・エネルギー循環技術の実現

EN

バイオマス由来触媒「ナノ血炭」を用いて、水素の生成・利活用技術や大規模蓄電デバイスの開発を行い、最終的に再生可能エネルギーや余剰電力を用いた電力平準化技術の構築を目指します。

プロジェクトリーダー

藪 浩

材料科学高等研究所
教授・主任研究者
AZUL Energy(株) CSO



積層造形イノベーションセンター

SO

金属粉末材料技術を基盤として、超急速凝固現象を利用した新規材料開発に加え、粉末熔融凝固・粉末焼結プロセスの基礎を確立する。また、In-situモニタリングによる欠陥のない造形や、電子ビーム積層造形の高度化、DED法・MEX法を活用した革新的な金属積層造形技術を推進する。

プロジェクトリーダー

千葉 晶彦

未来科学技術共同研究センター
特任教授



界面分子エンジニアリング

SO EN

開発した表面力測定技術を基盤とし、様々な融合研究を推進しています。最近では、世界最少量の超微量粘度計を開発し事業化するとともに、蓄電池の電極界面膜の評価に基づく実用蓄電池の開発に貢献しました。本プロジェクトでは、これら世界トップのナノ界面評価技術を発展させ、製品の形での社会実装を目指すとともに、産業界の技術課題解決を支援させていただきます。

プロジェクトリーダー

栗原 和枝

未来科学技術共同研究センター
教授



地域の再生可能エネルギーマネジメントシステムとまちづくりの研究

SO EN

本プロジェクトは、学内で調達したバイオマス資源を活用した発電を核として、再生可能エネルギーと次世代モビリティの統合による持続可能なまちづくりを推進します。地域における防災・減災機能を備えたインフラ整備を進め、災害時にも安定したエネルギー供給と移動手段の確保を図り、安全・安心な地域社会と経済活性化を実現します。

プロジェクトリーダー

安東 弘泰

材料科学高等研究所
数理科学オープンイノベーションセンター
教授



革新的パワーエレクトロニクスのための超低損失磁性材料の創成

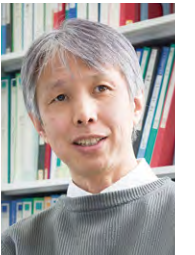
EL EN

2050年カーボンニュートラルに向けた次世代パワーエレクトロニクスの鍵を握る超低損失なバルク軟磁性材料の開発と社会実装を目的としています。パワーデバイスとしてSiCあるいはGaNを用いた高周波駆動環境下において既存材料比1/3の鉄損を目標としています。また、本研究開発活動と並行して産学連携コンソーシアムも運営しています。

プロジェクトリーダー

岡本 聡

多元物質科学研究所
教授



IHI×東北大学 アンモニアバリューチェーン共創研究所

EN

2050年カーボンニュートラルに向けて、再エネ資源の少ない日本においては、燃焼してもCO2を排出しないアンモニア燃料利用に期待が集まっている。その社会実装を加速するため、株式会社IHIと東北大学は、産学の英知を結集してアンモニアガスタービンの燃焼技術開発、耐アンモニア材料の新規技術開発を実施し、さらには、製造・輸送・貯蔵なども含めたアンモニアバリューチェーン構築に向けた課題探索と解決に取り組む。

プロジェクトリーダー

藤森 俊郎

流体科学研究所 特任教授(研究)
株式会社IHI 技監



半導体ナノファブリケーションに関する研究

SO EL EN

本研究では、Beyond 2nm半導体集積回路の性能向上に資する、原子レベルでの統合的な、ファブリケーション技術の検討を行います。半導体材料に関しては、シリコンとゲルマニウムの酸化初期過程や原子層堆積技術の検討を進め、最適な原料と成長プロセスの探索を行います。更に原子層成長技術を高度化し、絶縁膜と金属の理想的な界面を追求致します。本学に基本的な知的財産やノウハウを蓄積し事業化を進めます。

プロジェクトリーダー

遠藤 和彦

流体科学研究所
グリーンナノテクノロジー研究分野
教授



日仏ジョイントラボラトリー

SO EL EN

2008年に開設された東北大学とCNRS、リヨン大学間のELyTラボにおいては、多くの課題で共同研究を推進してきました。2016年1月にCNRSのIRL(国際研究ラボ)の枠組みを用いて日仏ジョイントラボラトリー-ELyTMaXラボが、高等研究機構国際ジョイントラボセンターに設置されました。今後、本事業を活用して日仏の国際共同研究をさらに加速させます。

プロジェクトリーダー
杉本 亜砂子

東北大学 理事・副学長(研究担当)
高等研究機構長



株式会社3DC

EN

材料科学高等研究所西原研究室で発明された炭素材料「グラフェンメソスポンジ(以下GMS)」の実用化を目指す会社です。GMSは、グラフェンをスポンジのような多孔質な3次元構造にした材料で、導電性・化学的安定性・柔軟性において既存の炭素材料を大きく凌ぐ性能を有し、次世代電池やキャパシタ、燃料電池などの蓄電デバイスへの応用が期待されます。電池の進化に貢献し、「炭素で真にサステナブルな社会を実現」します。

プロジェクトリーダー
黒田 拓馬

代表取締役 CEO



コアファシリティ統括センター

コアファシリティ統括センター(CFC)は、研究推進・支援機構下に設置された全学的な研究支援組織です。CFCは、東北大学が保有する研究施設・機器の維持とそれを運営する人材を一体的に管理し、これまで以上に高度で効率的な研究を推進する体制を構築することにより、みなさまの研究活動や技術開発を支援しています。

プロジェクトリーダー
杉本 亜砂子

東北大学 理事・副学長(研究担当)
コアファシリティ統括センター長



株式会社SmartTECH Lab.

SO

当社は、東北大学流体科学研究所、未来科学技術共同研究センターの中野研究室の研究成果を事業化する目的で設立された東北大学発ベンチャー企業です。電場や磁場そして外力等に反応して粘弾性等の物理的性質や電気・磁氣的性質が変化する先進スマート流体やソフトマターを開発し、これらのスマート材料を活用したダンパ、ブレーキ、クラッチ、アクチュエータ、センサ、振動発電等の高機能デバイスの創成を図り、一般産業機械、車両、ロボット等の各種システムへの応用・実用化と社会実装への展開を実施し、事業化を推進します。

プロジェクトリーダー
中野 政身

代表取締役社長 兼 CEO



アルプスアルパイン×東北大学 つながる価値共創研究所

EL EN

アルプスアルパイン×東北大学 つながる価値共創研究所では、「イノベーションの創出」「人材育成」「社会課題の解決(地域貢献)」を目的として活動し、東北大学の知を最大限活用し、市場環境や社会環境の変化に合わせた、新しい価値領域に挑戦し、未来価値創造につながる研究テーマの発掘と推進に取り組んでいます。

プロジェクトリーダー
谷口 義尚

工学研究科 特任教授(研究)
アルプスアルパイン(株)
技術企画室



AZUL Energy株式会社

EL EN

東北大学材料科学高等研究所の研究成果であるレアメタルを用いない高性能触媒電極材料の実用化を目的として2019年に設立致しました。次世代電池として期待される金属空気電池・燃料電池への応用により、レアメタルに依存しない環境配慮型の高性能電池の開発を通して、循環型社会の実現に貢献致します。

プロジェクトリーダー
伊藤 晃寿

代表取締役社長



スタートアップ事業化センター

スタートアップ事業化センターでは、東北大学の研究成果の事業化に向けて、東北大学ビジネスインキュベーションプログラム(BIP)等を実施し、ビジネスモデル・事業計画策定等のマネジメントを行いながら、東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社等と連携の上、スタートアップの設立／育成支援等に取り組んでいます。

プロジェクトリーダー
遠山 毅

東北大学 理事(産学連携担当)
スタートアップ事業化センター長



株式会社タムラ製作所

EL EN

カーボンニュートラルを実現するために、パワエレ回路の小型高効率化が進められ、スイッチング素子はSiからSiC、GaN、Ga2O3などのWBG半導体への移行が見込まれる。この移行に対応する高効率・高電力・高周波駆動の受動デバイスとその関連素材を研究開発する。

プロジェクトリーダー
齋藤 彰一

取締役
エグゼクティブバイスプレジデント兼CTO



EMデバイス株式会社NEXEMアドバンステクノロジーセンター

EL

進展著しい次世代移動体で需要増が見込まれる高電圧大電流対応の電磁リレーを対象に、電気接点アーク放電現象、電流通電時の接点の力学及び接触安定性の解析、研究を行い、より軽量かつ高性能なリレーを実用化することで環境・社会へ貢献します。

プロジェクトリーダー

大槻 靖則

センター長



株式会社松尾製作所R&D東北分析センター

EL

モータ及びレゾルバを含む次世代車載用磁気デバイスの研究開発及びクリノスタット等の研究開発

プロジェクトリーダー

関富 勇治

取締役 技術開発部兼営業部



【入居方法】

入居を希望する方は所定の申請書をセンター長宛にご提出ください。当センター規定の審査を経て入居の可否が決定されます。

【入居期間】 原則として1年を単位として使用できます。（最長5年）

【使用料（基本料金）】

使用者区分	1年間当たりの料金
本学の教員等	1平方メートルにつき 24,000 円
本学以外の方	1平方メートルにつき 33,000 円（税込）

2025年4月1日現在

この基本料金の光熱水費（実費及び共益費）を合算した金額をお支払いいただきます。詳細については、支援室までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

東北大学産学連携先端材料研究開発センター（MaSC）
支援室

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1

Tel: 022-217-3826

E-mail: masc-jimu@grp.tohoku.ac.jp

URL: <http://www.masc.tohoku.ac.jp/>